

栄中日文化
センターだより

「考えたい」。

世界の中心を自認した中国皇帝。去勢された男性役人である宦官（かんがん）は宮中の雑用にとどまらず、やがては強大な権力を握り、皇帝を意のままに操ることもあった。七月から始まる「宦官



から見えてくる。特定の水曜午後一時。四力月分で八千四百円（消費税別）。新入会は入会金三千五百円（同）が別途必要。申し込みは同センターフリーダイヤル（0120）538164へ。

からながめる中国の歴史」は、この歴史の黒子にスポットを当てる。講座を担当する関西大非常勤講師の藤原崇人さん。写真は「なぜ宦官は唯一無二の支配者を動かせたのか。当時の政治状況などか

ら考えたい」。講座では宦官の役割や性格、供給源を概説し、宦官と外戚（皇后の一族）がせめぎあつた漢代、宦官が皇帝の生殺与奪権を握った唐代、大物宦官がはびこつた明代の三王朝を取り上げる。皇帝に寄りそう異形の者たちの視点から、新たな中国史